
書き換え

白兎 成

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
書き換え

【Nコード】
N9491S

【作者名】
白兔 成

【あらすじ】
気付いたら真っ白な世界に居た俺。
そこで出会ったのは何とも態度の悪いグレタ自称天使だった。

柔らかな世界に漂う。

なんで、こんなところにいるんだ？

こんな場所、知らないぞ。

「うーん、それは君のキャパが小さいからでしょ」

何も存在しなかった空間に突如聞こえた意味不明な声。

なんだ、夢か。

「だあかあー君の脳みそがちっさいからだって言ってるだろ」

なにげに失礼な声ではないか、夢の癖に。

「てめっ、僕をお前の様な低能な奴の夢にするな！」

だんだん扱いが酷くなってる。

やだなあ、こんな夢。自分、いたってノーマルだからさ。

「地味に痛い」

鼻を抓まれる夢なんて余計に嫌だ。

苦しいじゃんか…、苦しい？

「で、どういうことが説明してもらおうか」

…態度の悪いコイツの話を掻い摘むことにする。

その？俺は死んだ

その？本当は死ぬはずじゃなかった

その？殺す人間を間違ったのは…

「お前が悪いんじゃないか！？」

目の前に居る自称天使である。

「お前、もういい。天使やめろ。いつそ死神に転生してしまえ」

その？上司に伝える気はなく、俺は冥界への道へ引っ張られていくとのこと

上司とは俺達の世界で言う神様らしい。

神様なら何とかしてくれるんじゃないかとの提案だが…

「ヤダ」

即答。かと言ってそのまま死んでたまるかである。

「何とかなるかもしれないんだろ、掛け合えよ、てか、責任とれよ」

「ヤダヤダヤダ！！嫌なもんは嫌だ！」

まるで駄々っ子…神様、再教育をお勧めします、というか天界追放だろ。

「…あんな、「お前は知らないから言えるんだ」

急に静かになったソイツは勝手に語り出す。

天使は人々の救いでなければならぬ
人間は日々進化し、変わりゆく

故に天使は日々進化し、その変化に遅れることは許されない

「天使に失敗は許されない」

遅れたからと言って追放することは忍びない

その上、現在の人間界の流行りはリサイクルだ

我々天界に属するものもそれにのっとって行動せねばなるまい

「そこから作られた天界の法が『天使リサイクル法』」

「リサイクル…？」

「そうだ。それを僕たち天使が何て呼ぶか分かるか…？」

そんなに長く話したという訳でもないのに天使は酷く年をとったかのように思えた。

「僕たちは…いや、僕はそれを『書き換え』と呼んでいる」

天使は見た目の年齢をとらないらしい。

人間よりはるかに長命であるもののガタは来るのだという。

「僕以外の天使はすでに書き換えが行われている…そして、その法律を覚えていない」

中には暴れ出す者もいたから、そんなことが起こらぬように書き換えて忘れさせたいらしい。

皆が怯える姿を見た、連れ去られて、『リサイクル』された仲間
は皆同じ笑みを浮かべ、表情を変えることもないとも語った。

「もう、潮時かもなあ…」

どうやら、バレたらしいと乾いた笑い声を上げる。

俺はと言うと、とても笑える気分じゃなかった。アイツがあんな

話するからだ。

「悪かったな、兄ちゃん…お前蘇生して貰えっから安心しろよ」

白くなる景色に霞んでいく天使、必死でその手を取ろうとする俺。
待てよ、待てよ。

そんな話聞いた後で目覚めたら後味悪いじゃねえか…！

「楽しかったよ…」

掠れていたけど、そう言っただと思う。
嫌いじゃなかったぞ、お前のこと。

「お前なあ…」

「兄ちゃん地味に痛いっ」

俺には年の離れた弟がいる。

大きくなる度に思うのだが、

「お前、本っ当に態度悪いよなあっ？」

…まるでアイツみたいだ。

ふと思う。

アイツは元気になっているだろうか、と。

やっぱり、書き換えられてしまったのだろうか、俺のことも忘れ
てしまったのだろうか。

まるで、遠くに居る友人に送るようなセリフに笑ってしまっ

「お前みたいな低能が僕の友人だって…？」

足元から聞こえたその声に時が止まる。
恐る恐る首を下に曲げると。

「…お前、天使か？」

不遜に笑うソイツがいた。

「よろしくな、お兄ちゃん？」

・これから先が思いやられる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9491s/>

書き換え

2011年10月8日13時37分発行